

若い力で飛騨牛PR



岐阜大生がブランド展開提案

授業報告会 育成ゲームなど考える

県内の銘柄牛・飛騨牛の現状を学んだ岐阜大の学生による今後のブランド展開に関する提案の報告会が、岐阜市柳戸の同大で開かれた。品種改良を重ねて良い牛をつくるスマートフォン向けの育成シミュレーションゲームを開発したり、飛騨牛をモンブラン状にパイ生地に乗せた軽食をサービスエリアで販売したりするユニークなアイデアが出された。

(小森直人)

学生の若い感性を飛騨牛の振興に生かそうと、岐阜大が本年度、

飛騨牛の認知度や消費を拡大するアイデアを発表する学生＝岐阜市柳戸、岐阜大

J A全農岐阜と共同で始めた地域ブランドと地域振興を考える授業「飛騨牛倶楽部」の1環。応用生物科学部1年生が受講し、繁殖雌牛や子牛の飼育現場、枝肉のせりを見学、飛騨牛を味わいながら生産者らと交流して現状に理解を深めてきた。報告会では学生11人が3グループに分かれ、生産や流通、販売や商品開発に関わるアイデアをプレゼンテーション。上田裕紀さん(18)ら4人は「味は抜群なのに高価とのイメージから手が出せない」という点を課題と捉え、話題性を高め、消費のきっかけをつくることを重視。本巣市の柿など県内特産品を含む飼料を与えて育てることも飛騨牛専用のたれを作ることも提案した。J A関係者や教職員ら約50人が耳を傾け、斬新な発想に驚きの声を上げた。